

テーマディスカッション

2. 欧米におけるCCS診療の潮流(医療経済評価含む)

北播磨総合医療センター 循環器内科
山田 慎一郎

2019年にヨーロッパ心臓病学会、2021年には米国心臓病協会/心臓病学会が安定冠動脈疾患についてのガイドラインを相次いでupdateし、公表した。特に安定冠動脈疾患の診断においては近年の画像診断を中心とした診断技術の進歩やそれらの技術を用いた数々の臨床研究の結果を取り入れたものとなった。特に大きく変わったのは、近年に至るまで長年にわたって診断法の主役であった運動負荷心電図の位置付けが大きく後退し、変わって解剖学的評価としての冠動脈CT angiographyがヨーロッパ、米国とも非常に高く推奨されることになったことである。これは安定冠動脈疾患に対するスクリーニング的な冠動脈CT angiographyによる評価が長期予後の改善につながることを示したSCOT-HEART研究を始めとする数々のCTを用いた臨床研究の結果に基づくものである。また負荷試験においても感度・特異度の低い運動負荷心電図に変わって、以前よりgold standardであった負荷心筋シンチに加えて運動負荷心エコー・薬物負荷MRI・PETなどが強く推奨され、また米国ではFFR CTが負荷検査に変わりうる方法として推奨されており、これらのmodalityを用いることにより精度の高い診断法を目指す方針となっている。一方で、検査法の進歩はそのまま医療コストの上昇にもつながっている。これらの診断法の費用は国や地域によって大きく異なっており、結果として安定冠動脈疾患に用いられるmodalityの種類も各国によって異なってきている。主に米国と英国の現状を示し、我が国と診断精度や費用がどのように異なるかを述べる。

略歴

1992年	神戸大学医学部 卒業 神戸大学医学部附属病院 内科	1998年	兵庫県立姫路循環器病センター 循環器内科
1993年	国立神戸病院 内科	2015年	北播磨総合医療センター 循環器内科部長
1995年	神戸大学医学部 第一内科	2021年	同 循環器センター長 兼務
			現在に至る

■所属学会・資格:

日本内科学会(認定医 総合内科専門医)、日本循環器学会(循環器専門医)、日本冠疾患学会、日本心臓核医学会、日本心血管インターベンション治療学会(指導医・専門医・認定医) 理事・代議員・近畿支部幹事